

2026年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
22201	解剖学 Human Anatomy	森 啓至			2	必修	1前期

科目の概要

「解剖学」は人体の構造を細胞から個体レベルにまで系統的に解き明かすことであり、皆さんのように栄養士としてあるいは医療と関わる仕事を指す人にとっては生命現象を科学的に理解するうえで必須かつ基幹的な科目の一つである。そこで、人体構造を理解するためには、構造的に関連する器官や臓器の集団を系（システム）として10区分し、系を構成する器官や臓器の相互関係について構造上の類似性によってどのような働き（機能）を支えているか修得する（ディプロマ・ポリシー③に相当する）。また、細胞レベルの微細な構造を扱う「組織学」や個体の「発生学」、「生理学」、「疾病の成り立ち」などの知見とも関連付けながら授業を進める（ディプロマ・ポリシー③に相当する）。この授業では、栄養士に必要な客観的な証拠に基づいて科学的にもごとの判断ができる能力を身につけることができる（ディプロマ・ポリシー③④に相当する）。なお、講義時に配布する資料は全てPDFファイルの形式で配信するので、随時パソコンを利用する必要がある。

学修内容	到達目標
① 細胞の形態的構造とその分子レベルの特徴を知り、説明できることを目的とする。 ② 人体の機能的器官として、消化器系、心臓血管系、呼吸器系、内分泌系、腎泌尿器系、神経系（感覚器を含む）、骨格・筋肉系の形態とその特徴を知り、説明できることを目的と ③ 基本的な解剖学用語表記を知り、使用することができることを目的とする。 ④ 人体の臓器等の形状を人体モデルを使って再構成することができ、生理学で学ぶ働き（機序）を考える際には、知識を活用・役立てて様々な問題を解決することができることを目的とする。	① 人体を構成する基本単位である細胞と同種の細胞が集団化して機能的に分化した組織、さらには異なる組織により形成される器官や臓器の成り立ちを説明することができる。DP③ ② 人体の機能的器官である心臓血管系、呼吸器系、内分泌系、腎泌尿器系、神経系（感覚器を含む）、骨格・筋肉系について構造上の特性を説明することができる。 ③ 基本的な解剖学用語（器官や臓器名、人体の外形区分の表記法など）については、日本語と英語で表記することができる。DP③ ④ 人体の臓器等の形状を再構成することができ、生理学で学ぶ働き（機序）を考える際には、広く知識を活用・役立てて様々な問題を解決することができる。DP③④

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
---------------------	---------------------------

前に踏み出す力	主体性	授業以外の時間を使い自己学修で知識を深め、また、課題に取り組むために必要な知識を資料を探し、教科書や参考書などを利用して収集し、解決できる。
	働きかけ力	
	実行力	到達目標、評価方法等を確認して、目指す成績目標を設定すること。その上で、目標が達成できるよう復習や予習に取り組むことができる。
考え抜く力	課題発見力	本科目で人体の構造を理解し、また2年次で「生理学」を学修することで、人体を構成する器官や臓器の働きの仕組みが分かり、その上で、ヒトがヒトたる所以について推察することができる。
	計画力	
	創造力	本科目や「生理学」、「解剖生理学実験」で学んだ知識だけでなく、他の科目や汎用的知識を動員して、自らの客観的発想を行うことができる。
チームで働く力	発信力	グループ内で課題について教科書や文献を検索し意見を述べる時、あるいは発表する時、聞き手にわかりやすく理解が十分にできるようポイントを整理して発表することができる。
	傾聴力	グループワークで課題について意見交換する際、相手の意見を十分に聴き、効果的な質問をして、自分の意見を述べるができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	遅刻・無断欠席など学修意欲欠如をきたす行動をせず、円滑に授業が進行するようルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト：「人体の構造と機能及び疾病の成り立ちI」

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：「生理学」、「生化学」、「病理学」、「解剖生理学実験」、「科学概論」
 資格との関連：栄養士（管理栄養士）、医療管理秘書士

学修上の助言	受講生とのルール
解剖学は形態や構造を学修するにとどまらず、その機能についても併せて学修すると良い。使用するテキストの図は自らスケッチするなど形態の理解に努めるとよい。日常的に、関連する生物学の基礎的内容については、インターネットや図書館利用で知識を得るとよい。解剖学用語や器官・臓器などの英語表記については、何度も書いて復習するとよい。なお、資料の配布はPDFファイルで配布するので、資料の利用時にはスマートフォンよりもパソコンを利用すると良い。	授業中の私語は周囲の迷惑となるので慎むこと。スマートフォンは電源を切りカバンの中に入れておくこと。質問などは遠慮せず、授業内と時間外で積極的に行うこと。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学 期 末 試 験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	50	①	✓			人体の細胞や組織と臓器・器官の機能的連携を表す系について、形態的な特徴を説明できること。器官や臓器の相互関係について図示できること。 解剖学用語の内、基本的な表記が出ること（日本語・英語）。 10の生体システム系について分かりやすく説明できること。 また、解剖学必須の学修内容を理解し、ポイントを捉え、自分の表現で記述し説明しているかについて確認して評価する。解剖学を学び、機能発現と関連する事柄を設定してし、関係性について調べることで、解剖学に活用力（pisa型学力）として評価します。したがって、授業を通して、課題の確認とその解明作業を行っておくこと（期末試験ではこのことについて出題します。）		
				②	✓					
				③	✓					
				④						
	平 常 評 価	小テスト		40	①	✓			必須の学修内容について確実に理解し、習得しているかを確認するため、各単元終了の翌週に行われる授業開始時に記述式の小テストを行う。この際、基本的な解剖学用語が適切に用いられていること（日本語・英語）。解剖学に活用力（pisa型学力）として評価します。	
					②	✓				
					③	✓				
					④	✓				
		レポ ー ト		0		①				
						②				
						③				
						④				
成 果 発 表 （ プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン ・ 作 品 制 作 等 ）		0		①						
				②						
				③						
				④						
学 修 行 動	社 会 人 基 礎 力 （ 学 修 態 度 ）		10	①	✓			「主体性」自ら知識を深める又は課題を解決する取り組み行動が見られること・・・小テストや期末試験で確認し評価する。 「実行力」自己の学修や評価の目標を設定して、その達成に努力すること・・・小テストや期末試験などで確認し評価する。 「課題発見力」生体の構造の理解に努め、臓器で構成する系について説明できること・・・小テストや期末試験での記述内容が論理的、合理的であるか確認し評価する。 「創造力」他の科目や汎用的知識を動員して、自分の発想ができること・・・口頭試問で確認し評価する。 「発信力」聞き手に解りやすくポイントについて、発表ができること・・・口頭試問やグループディスカッションの際、これらの点を確認し評価する。 「傾聴力」相手の意見に対して、効果的な質問を通して、理解を深めることができること・・・グループディスカッションの際、これらの点を確認し評価する。 「規律性」遅刻、無断欠席など学習意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。欠席した場合は欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。		
				②	✓					
				③	✓					
				④	✓					
総合評価割合		100								

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>★人体を機能的に分割して、その器官や臓器の形態的特長及び名称を記述し、また口頭でも的確に説明できること。(①)</p> <p>★栄養士実力認定試験ガイドラインで示す本領域での基礎的知識を的確に説明できること。(②)</p> <p>S (秀) = ①+②、A (優) = ①又は②</p>	<p>★人体をに機能的に分割して、その器官や臓器の形態的大要及び名称が記述でき(①)、口頭でもわかりやすく説明できること。(②)</p> <p>B (良) = ①+②、C (可) = ①</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	○ 細胞・組織・皮膚 人体を構成する最小単位である細胞、そしてその細胞が集まって作られた組織の構造を理解する。	講義 今後の授業の進め方や自己学修の方法等について説明する。また配布資料をパソコンを使って利用する方法について説明する。 授業では、質問を受けて学生間でディスカッションし、解決を試みる。 また、配布資料はPDFファイルで配布する。	解剖学的表記法、外形区分、細胞や組織の種類をわかりやすく説明することができる。また、人体の最外層を覆う臓器である皮膚の構造と役割を理解する。	(復習) ノートへ人体構造の概要と英語表記を記入すること。 (予習) 次回の消化管の全体像について教科書を調べ、名称を覚えておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2	○ 消化器系① 消化管の構造や機能を系統的に理解する。	講義 授業の開始時に、小テストを行う(前回までの単元に関する質問に答えた後、フィードバックする)。授業では、内容の質問を受けて、学生間でディスカッションし解決を試みる。また、配布資料はPDFファイルで配布するので、資料の利用にはパソコンを利用する。	口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸の形態と名称を理解しポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習) 消化器系を構成する臓器の種類と構造を覚えること。 (予習) 次回の肝臓、胆嚢、膵臓の全体像について教科書を調べ、名称を覚えておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3	○ 消化器系② 消化器の臓器である肝臓、胆嚢、膵臓の構造や機能を系統的に理解する。	講義 授業の開始時に、小テストを行う(前回までの単元に関する質問に答えた後、フィードバックする)。授業では、質問を受けて学生間でディスカッションし、解決を試みる。 また、配布資料はPDFファイルで配布するので、資料の利用にはパソコンを利用する。	肝臓、胆嚢、膵臓の形態と名称やその接続を理解しポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習) 肝臓、胆嚢、膵臓の構造と接続の仕方を系統的に理解する。 (予習) 次回の心臓血管系の全体像について教科書を調べ、名称を覚えておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4	○ 心臓血管系 心臓の解剖、血管支配、体循環を理解する。	講義 授業の開始時に、小テストを行う(前回までの単元に関する質問に答えた後、フィードバックする)。授業では、質問を受けて学生間でディスカッションし、解決を試みる。 また、配布資料はPDFファイルで配布するので、資料の利用にはパソコンを利用する。	心臓血管系の全体像を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習) 心臓や血管の構造について種類別にノートへ図示し覚えること。 (予習) 次回の呼吸器系の全体像について教科書を調べ、名称を覚えておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5	○ 呼吸器系 呼吸器(鼻から喉頭までの上気道と気管から肺胞までの下気道)の構造について理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に口頭又は記述で答えた後、フィードバックする)。授業では、質問を受けて、学生間でディスカッションし解決を試みる。 また、配布資料はPDFファイルで配布するので、資料の利用にはパソコンを利用する。	呼吸器の構造とその特徴を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習) テキストの図を参考に呼吸器の全体像と気管や肺の特徴をノートへ図示し、呼吸器の名称を覚えること。 (予習) 次回の内分泌系の全体像について教科書を調べ、名称を覚えておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6	○ 内分泌系 内分泌系臓器の名称と構造・形態を理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に口頭又は記述で答えた後、フィードバックする)。授業では、質問を受けて、学生間でディスカッションし解決を試みる。 また、配布資料はPDFファイルで配布するので、資料の利用にはパソコンを利用する。	内分泌系臓器の形態的特長と名称を理解する。ホルモン産生細胞と標的を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習) テキストの内分泌系全体像をノートへ図示し、各臓器の名称と構造の特徴を覚えること。 (予習) 次回の腎・泌尿器系の全体像について教科書を調べ、名称を覚えておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7	○ 腎泌尿器系 腎臓の構造と尿管、膀胱、尿道の形態と位置関係を理解する。	講義 授業では、質問を受けて、学生間でディスカッションし解決を試みる。また、配布資料はPDFファイルで配布するので、資料の利用にはパソコンを利用する。	腎臓の構造と尿管、膀胱、尿道の形態と位置関係を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習) 腎臓の構造と尿管、膀胱、尿道の形態と位置関係を理解し覚えること。 (予習) 次回の種々の内分泌系全体像について教科書を調べ、名称を覚えておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8	○ 血液 血液細胞の形態と特徴、造血臓器の種類と構造について理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に口頭又は記述で答えた後、フィードバックする)。授業では、質問を受けて、学生間でディスカッションし解決を試みる。 また、配布資料はPDFファイルで配布するので、資料の利用にはパソコンを利用する。	赤血球、白血球、血小板の形態と特徴、骨髄の構造と役割をわかりやすく説明できる。	(復習) 血球成分の形態と名称、骨髄の構造と役割をまとめ覚えること。 (予習) 次回の中枢神経系の構成をノートへ図示し、名称を記入すること。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	○ 神経系① 脳と脊髄の形態、機能と血管の構造と特徴について理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に口頭又は記述で答えた後、フィードバックする)。授業では、質問を受けて、学生間でディスカッションし解決を試みる。また、配布資料はPDFファイルで配布するので、資料の利用にはパソコンを利用する。	大脳、間脳、脳幹、小脳、脊髄、髄膜の構造と特徴をわかりやすく説明できる。脳と脊髄の血管系について構造と特徴をわかりやすく説明できる。	(復習) テキストを参考に大脳、間脳、脳幹、小脳、脊髄、髄膜、脳や脊髄の血管系の構造と特徴をノートへ図示し名称を覚えること。 (予習) 次回の末梢神経系と神経細胞の特徴をノートへ図示し、名称を記入する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10	○ 神経系② 末梢神経系の分類や構造、自律神経系の構造と特徴について理解する。 神経組織(ニューロン)の基本構造と特徴について理解する。	講義 授業では、質問を受けて、学生間でディスカッションし解決を試みる。また、配布資料はPDFファイルで配布するので、資料の利用にはパソコンを利用する。	自律神経を含む末梢神経系およびニューロンの分類と特徴を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習) ノートへ末梢神経系の種類およびニューロンの基本形を図示し、それぞれの特徴を覚えること。 (予習) 骨の構成と構造の概要についてノートに図示し、名称を記入する。	180	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 柔軟性 規律性
12	○ 運動器系① 骨の種類と形態やその特徴について理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に口頭又は記述で答えた後、フィードバックする)。授業では、質問を受けて、学生間でディスカッションし解決を試みる。また、配布資料はPDFファイルで配布するので、資料の利用にはパソコンを利用する。	全身にある骨の名称と形態と名称を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習) ノートへ骨の種類、名称と構造についてまとめ覚えること。 (予習) 次回の筋肉について、ノートに種類と名称を記入すること。	180	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 柔軟性 規律性
13	○ 運動器系② 筋肉の種類と形態的特徴を理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に口頭又は記述で答えた後、フィードバックする)。授業では、質問を受けて、学生間でディスカッションし解決を試みる。また、配布資料はPDFファイルで配布するので、資料の利用にはパソコンを利用する。	骨格筋、平滑筋、心筋の形態と特徴を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習) 骨格筋、平滑筋、心筋の形態と特徴をまとめ覚えておくこと。 (予習) 次回の感覚器の構成についてノートへ図示し、名称を記入すること。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	○ 感覚器系① 感覚を受容する器官である耳、口腔(舌を含む)の構造と特徴を理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に口頭又は記述で答えた後、フィードバックする)。授業では、質問を受けて、学生間でディスカッションし解決を試みる。また、配布資料はPDFファイルで配布するので、資料の利用にはパソコンを利用する。	それぞれの感覚器の形状、名称と特徴を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習) 耳、口腔の構造と特徴についてノートでまとめて覚えること。 (予習) 次回の眼球の構造について図示し名称を記入すること。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	○ 感覚器系② 感覚を受容する器官である眼球の構造と特徴を理解する。	講義 授業では、質問を受けて、学生間でディスカッションし解決を試みる。また、配布資料はPDFファイルで配布するので、資料の利用にはパソコンを利用する。	眼球の構造と特徴を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習) 眼球の構造と特徴を理解する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
					180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力